

平成 25 年度 「第 3 回 松戸市子ども・子育て会議」 会議録（要旨）

1. 日時	平成 26 年 1 月 20 日（月） 18 時 30 分～20 時 30 分
2. 場所	松戸市役所 議会棟 3 階 特別委員会室
3. 出席者	<p>&lt;委員&gt;（50 音順）</p> <p>飯沼委員、石田委員、伊藤委員、海老原委員、大川委員、沖委員、小野委員、神谷委員、小松崎委員、斉藤委員、鈴木委員、富永委員、奈賀委員、永瀬委員、成瀬委員、西委員、野中委員、文入委員、森田委員、山口委員、渡辺委員</p>
4. 欠席者	石井委員
4. 傍聴者	10 名
5. 議事	<p>（1）計画策定の基本理念について（意見交換）</p> <p>「松戸の子どもたちや地域の良いところ、次の世代に残すもの、未来に伝えたいものは何か」</p> <p>「次世代育成支援行動計画の理念と比較して、特に力を入れていくべきことは何か」</p> <p>（2）子ども・子育て支援新制度について</p> <p>①計画策定の区域設定について</p> <p>②新制度事業の事業量の見込みについて</p> <p>（3）放課後児童クラブに関する調査結果と事業評価について</p>

1、開会

2、議事

○会議の成立

（事務局）

- ・総委員 22 名、21 名出席（欠席 1 名）。会議の成立を報告する。

○本日の傍聴の受け入れ

（事務局）

- ・10 名の方の傍聴の申し出あり。入室を許可する。

○議事の録音について

- ・議事録作成のため、了承。

（1）計画の基本理念について

（事務局）

- 計画の基本理念について 事務局より、資料に添って説明。

○意見交換

### 意見交換「妊娠・出産から0歳」

(鈴木委員)

良いところは、松戸は医療施設、病院が多いので、方策としては市立病院を子どもに対し、特化したものにしていくのはどうか。

(会長)

現状、医療がとても充実しているので、子どものところに力を入れる方向にもっていくのはどうかという意見であった。

(海老原委員)

松戸地域は他の地域に比べ、保育所に預けている人が多い。利用しやすい病児・病後児保育の充実を方向性としてあげたい。良いところは、おやこDE広場などが複数あって利用しやすい。

(石田委員)

「おやこDE広場が多くてよい」ということだったが、アンケートの結果によると「知っている」という周知はできているが、「利用できているか」というと3割の利用にとどまっているという結果だった。利用しやすくする為にはどうしたらよいかを考えていきたい。

地域で支える子育てが昔に比べれば、だいぶ良くなってきている。それに伴い地域の人たちに、母親や父親、子育てしている人達を、いかに理解してもらえるかという施策を考えていきたい。

(富永委員)

市立病院の新生児救急センターが、今でも高い医療のレベルを保っている。それによって、出産時、安心して産めること、松戸市にはこども発達センターが他の地域に先駆けて16年前から実施していること、市立病院から異動された医師が施設長であるため市立病院からの患者さんがこども発達センターにつながりやすいということ、医療と福祉に向かった連携が安心材料になっている。

こども発達センターに医師がいるというのは、私の知るかぎり近隣でも少ないので、理想を考えると、もっともっと市内の小児科等の先生と連携していけるとよい。

(会長)

医療と福祉と地域、それから地域住民との連携ということが今後の方策として出てきている。また、既存のおやこDE広場等の施設の周知の高さはかなり評価できるが、利用しやすい方法を今後考えていくべきではないかという意見が出ている。

(野中委員)

おやこDE広場で、乳幼児と保護者と中学生との交流を行っている。先ほども地域の広がりが必要という話があり、兄弟経験が少ない子ども達が多い中で、身近な人の

妊娠、出産、乳幼児を抱っこする機会が大変減っているので、交流を通して「命の大切さ」や「乳幼児と直接ふれあう体験」というものが大切になってくると感じる。この間の話しの中で、「母一人のがんばり」ということで子育てのなかで孤独になっている母親も、そういう場に出て行くことで自分の役立ち感や、孤独に陥る必要がないと感じられる場の提供が、今後、多くのおやこDE広場で展開できたらよい。安全なコミュニティで乳幼児をいたわる気持ちを次の世代に伝えていくというのも大切と感じる。

(文入委員)

各地域にいる健康推進員の研修や活動はよく耳にするが、さらにその母体の地域、町会、自治会等で地域住民が交流、連携をもつような方向になると、子どもあるいは出産前後のことを特にサポートができる体制になるのではないかと感じる。

(永瀬委員)

先ほども、おやこDE広場の母親たちが中学校の教室に出向いて、生徒が赤ちゃんを抱いたり、子育ての苦労話を母親から聞いたりというふれあい体験の話がありました。母親の希望を聞くと、かなり積極的に参加している。是非、中学生と話がしたいと積極的に中学校に出向き、「去年とてもよかったので今年も」という感じでやっていて、とても良いと思った。おやこDE広場を通して、中学生とのふれあい体験へとつながるのはすばらしいと思った。

(小松崎委員)

妊娠している人が保育所見学に来ることがたびたびある。最初は「こんな小さい子どもなのに…」というような不安げな妊婦さんが、子ども達の様子をみていると「すごく楽しそうだ」と言って、出産が楽しみ、心待ちにするような笑顔で帰っていく。これは近隣のある市の取り組みだが、実家のような保育所（園）みたいな形で、妊娠中のお母さん達が地域のある保育園に登録をして、日頃遊びに来て子ども達の様子を見たり、育児の方法を学んだり、何か困ったことがあったら相談をするというようなシステムを作っているところがあると聞いた。そのような体制作りや受け入れが整備できたらよい。

(神谷委員)

松戸では父親の子育て支援講座や先駆的なパパ手帳などを、早めから作ってきた。そういう意味ではお父さんの子育て参加をもう少しすすめていけたらよい。母親をサポートするシニア世代も含めたボランティア活動の振興というのがもう少しあると、松戸市全体での子育て支援の体制が民間から生まれ、盛んになると感じる。

(石田委員)

今、松戸で子育てコーディネーターが、各おやこDE広場に配置されている。全国に先駆けて実施しており、身近なところで相談が出来る、松戸市の色々な体制などが伝えられる、妊娠中から保育園に行き相談できる、といったところがよいと感じて

いる。

妊娠しても、子育ての良いイメージがもてるよう、子育てコーディネーター等、色々な支援があることをもっと知ってもらい、地域で連携ができれば良い。

(会長)

たくさんの「交流」というものを中心に、中学校との交流、健康推進員さんの活躍、保育園（所）での妊婦さんへのフォロー、たくさんの現状の良さを是非引継いでいきたい、さらなる父親参加、パパ手帳等、そういうものも次々と展開していきたいというご意見であった。

### 意見交換「未就学児 1歳から5歳」

(大川委員)

各地域で盛んに出来ている子育てサークルを実際に見てきたのだが、子育てに悩んでいる母親が子育てサークルに参加する事で、虐待を防ぐことにつながっているのではないかと感じた。相談する場所もあり、同じような悩みをかかえている母親たちと会うことが出来てよかったと思う。子育てサークルは3歳位までだが、それを卒業しても親同士の交流があったらよいのではないか。

(会長)

現状の子育てサークルの有効利用とその後のつながりという事が大切であるという意見であった。

(小野委員)

松戸市には公立保育所が16か所あり、看護師が必ず常駐している。これは非常に恵まれている。これは各市から大変羨ましがられているので、是非続けていただきたい。また、1才6か月児健診、3才児健診の受診率が85%前後くらいで、他市に比べてどうかは分からないが、比較的高いということと、それに対するフォローとして、保健センターの保健師、栄養士、歯科衛生士等のグループと、健診に従事する医師、歯科医師とが年に1回会議を行い、その後どうなったかを追い、比較的細かくフォローしている。その結果、発達センターにつながっている子や、疾患については市立病院や他の病院でフォローし、受診しやすい状態になるように毎年改善している。是非、続けて行っていただきたい。

もう1つ言うと、発達センターは就学前までの子をあつかい、そこまではすごく手厚い感じがするが、就学後にもこの発達センターにつなげていくという方向に行けるとよい。

(会長)

保育園を含め、保健センター等の専門職の連携と地域連携、発達センターの連携というようなことが有効に機能しつつあるが、課題もあるという意見であった。

(文入委員)

各15地区の社会福祉協議会の中には子育てサロンを開催しているところが多い。その報告等を聞くと、母親の悩みの解消につながっている、サロンとは別の所でも連携や交流があると聞いている。また、サロンの中では保健師やファミリーサポートセンター等の方々に出向いてもらい色々な話をしてもらっている。このことが子育てしやすい方向に行くのではないのか。更に、輪を広げていくということが重要である。

また、地域での市民運動会では未就学児と親が参加するゲームなどが必ず予定されており、地域での交流の場が広がると期待している。市民運動会だけで終わるのではなく、それをきっかけに地域での交流の機会が増えれば良い。

(永瀬委員)

分からないので教えて欲しいのですが、松戸市の小児病棟に保育士がどれくらい配置されているのか、もしわかったら知りたい。すべての子どもが幸せにというのであれば、病児に対しても、入院していても、きちんと友だちとの関わりや発達が保障されるということは大事である。

(会長)

意見が出たあとで、事務局への質問ということでよいか。

(鈴木委員)

松戸の幼稚園は敷地が広い。ただ、文部科学省から色んな補助金が出ていないので、子育て支援施設が充実していない。預かり保育など、運営面で補助金が出るようになるとだいぶ違い、子育てがしやすい街になるのではないかと。すべての幼稚園でそうなると良いと思う。

(飯沼委員)

すべての子どもが平等に対等ということ、子ども達、幼稚園も保育園も、或いは幼稚園・保育園に来ていない子どもも、子どもとして皆同じような対等な援助や応援をもらえることが大事である。その中で外国人への子ども達に対する処遇について、できるだけ同じように見ていただきたい。

松戸には外国人も多くおり、100カ国以上、一万人以上の外国人がいる。乳幼児の数は分からないが、小学生、中学生に関しては300名以上の外国人のお父さん、お母さん、子どもたちがいる。その人たちに対する日本語の指導や、日本文化の紹介などが必要である。特に社会福祉協議会は幅が広いので、出来るだけ日本人、松戸の市民と交流する場を大事にしていただけたら有難い。幼稚園にも外国の子どもが来ているが、まだどうしていいのかわからない状況である。小学校、中学校ではある程度、日本語を教えるように教育委員会でも配慮をしてもらっているが、まだ不十分で中学校の頃になると友達がいなくて、国に帰りたくなってしまったり、或いは暴力的になってしまうといったことが起こり得る。外国人も日本にいる子どもと同じように対等に、平等に色々な配慮していくことを考えていくことが松戸市としては、大事である。

(沖委員)

人口密度の高いところはだいたいそうかもしれないが、サンダルを履いて歩いて10分以内に保育所または幼稚園が必ずある。これは素晴らしいことじゃないかと思う。もうひとつ、身近なところに保育所・幼稚園があることに加えて、保育内容或いは教育内容が素晴らしい。本当によくここまでやっていると思うくらい素晴らしいと思う。これを是非将来に残していただきたい。

(野中委員)

子育てに関して、最近の親は大変関心が高いと思う。やはり子ども達は体験を通し、豊かに育っていくと常々感じている。そのために、やはり自然体験のできる遊び場、安心して遊べるような遊び場、また父親の養育、小さい頃の子育てへの関わりのできるような参画意識。もう1つは、世代間の交流、要するに同世代だけではなく、お年寄りまで含めて関わられるような場が身近にあると良い。また、外国籍の子どもや色々な子との関わりなどが心豊かに育ちにつながっていくと思う。

(山口委員)

保護者が幼稚園や保育園など自分の行きたいところを選べるというのが良いのではないかと考えている。お金のことや色々な家庭環境によって行きたい所を選べないということではなく、選ぶために援助してあげる、補助してあげる、何かサポートがあれば自分の行きたい所に行けるというのが良い。何が必要なかはその状況によって違うと思うが、選べるというのが大きいと思う。

また、幼稚園、保育園を卒園した後のこともあると思う。小学校、中学校それから大人になった後のことを考えると、地域で色々な人と交流をしたり、同じ学年、同じ仲間をつくり、松戸市のなかで「ここが自分達の市なんだ」という愛着、そういった松戸市が好きな子ども達を作って欲しいと思うので、交流や地域で友達を作ることが大切である。

(奈賀委員)

幼稚園、保育園から一年生に上がるときに、やっぱり小1ギャップみたいのものがあある。ここ数年、私が学校にいても感じているので、もう少し幼小の連携などが密になれば良いと感じている。すでに行っている学校や幼稚園、保育園もあるかと思うが、どこの幼稚園、小学校に行っても先生同士が連絡を取り合っているという環境にあると、子どもも親も先生も安心して授業ができるのではないか。

(会長)

現状での良さが多く出ていたかと思います。保育内容の充実、社協の活動、幼稚園の敷地からさらに充実できるこれからのフォロー、ファミリー・サポートの交流の場というような、幅広い意見であった。

続いて小中高について、先ほど、国際交流、外国人の対応とか教育問題も出ていたが、さらに高校生まで幅を拡げた意見を出してほしい。

## 意見交換「小・中・高校生」

(文入委員)

地区社協では、ふれあい広場を開催していることも多く、小学校、特に中学生あるいは高校生などもボランティアで参加してもらっている。全地域という訳にはいかないが、もっともっと周知を図り、多くのところでボランティア参加ができるような方向になればいい。学校との連携も多くあり、ふれあい広場等で、特に小学生、中学生の音楽、吹奏楽、合唱を通じて地域の人達との交流が深まっているのでさらに全地域に拡げていきたい。町会、自治会等で行う、例えば盆踊り、もちつき会、こま回し会では、子どもたちが親や祖父母世代と一緒に参加する姿が見られるので、そういうことをきっかけに、地域での子ども達の見守り、中学生の力の活用などの方向性に持っていければよりよい交流のある地域になるのではないかな。

(神谷委員)

小中高年生にとって自然体験可能な場が、種目ごとに、こんなにある地域はない。それを活用しようと思えば出来る場所があるというのも松戸である。公園がさらに子どもに開かれた場になるように、種目ごとにボランティア指導員の活用を考えるなどの必要性があると思う。小中学生は特に、たいへん素朴で素直な子どもが多い。交友関係にもきちっと応答し、優しい心根の子ども達が多い。街の将来ことも考えてくれている子ども達が多いので、「GET YOUR DREAM」だけでなく、もっと子どもの声が街づくりに活かされるようなイベントや場を拡大していく必要があるのではないかな。今、子どもたちが考え、言ってくれているうちに実施していくことが大切である。

(石田委員)

松戸は部活動やレッツ体験、社協のボランティアなど本当に盛んである。ただ、子どもにとって自主的なのかという事が気になる。学校の勧めで職場体験に行っているということもあるのではないかな。子どもが自主的に選べ、部活動をやっていても、自主的にボランティアに行ける場や機会など、幅を拡げて行って欲しい。

また、野菊野こども館には小中高生がたくさん来ているが、子どもの居場所が松戸は少ないと感じている。外で遊ぶ事も重要だと思うが、いっぱい心にかかえている子どもも多く、そこを受け止めてあげられる場所が必要だと感じている。野菊野こども館は狭いので、乳幼児から高校生までという幅広い年齢を受け入れることが大変である。その中でも、この場所があるということに頼りに心許して来てくれる子どもがいるので、このような場所がたくさんあるといい。また、先ほど言い忘れましたが、乳幼児のところ、大きくなっておやこDE広場に行けなくなった子どもの居場所や「私はあのような人が大勢いるところはいやだ。」という人達の為に、どういうところでフォローしたらいいのかなど、すべての子どものことを考えていけると良い。

(海老原委員)

今、子どもが3歳だが、いずれ放課後児童クラブにお世話になる。色々話を聞いていくと、ゲームを持参するようになったと聞いた。例えば夏休みに子ども達が遊ぶ時間をもてあまし、ゲームがOKになったと聞くと、そういうところにずっと預けることを不安に思う。子どもは自主的に遊びに出かけたりすると思うので、放課後児童クラブもメニューを拡充していきたいということと、子どもが主体的に「今日はここに行こう」と自分の意思で出かけられる安全な場所が小中学生には必要だと思う。「今日は外遊びでこんなプログラムがある」とか、いくつか選択肢があるという事が子どもにとっては大事な自分を育む場だと思う。

(大川委員)

松戸の子ども達はとても前向きで素直だと思う。また、体験の話が出ているが、子ども達にとって体験こそ力だと思う。特に異年齢集団での体験は、自信もつき、責任感や思いやりも生まれるので、是非色々な体験をさせたい。学校では色々な知識を学ぶが、その学んだ知識を子ども会の遊びで知恵を身に付けて、その知識を生かすなど学校で学んだ知識を宝の持ち腐れに2wしないように知恵で生かすということもしてもらいたい。

(小松崎委員)

保育所では小・中・高生の体験学習を受け入れている。子ども達が保育所に来たとき、「小さかった僕がここにいるようだ」という感想をもらった子もいた。

自分のアイデンティティーの場だと、今の自分との比較をし、ここで育ったという子どもがいて、懐かしがる姿があった。また、育児のやり方や子どもの様子を見ることで、「赤ちゃんはこんなふうにミルクを飲むんだ」、「こんなふうにオムツを取り替えてもらうんだ」、「あったかいね、重たいね」などと直接体験を通すことが、子ども達にはすごく響くようだ。

昨年暮れのニュースで、ネグレクトで亡くなった10ヶ月の子がいた。母親にあたる人が、仕事に出かけている間、友達がみていたようだが、「泣いたら口をふさいでもいいよって言われた。」そして、お腹が空いているようだったので、「ミルクがなかったので炭酸水を飲ませた」、「朝起きたら冷たくなっていた」とその少女達は語っていた。やはり、体験を通す学びの場がなかなかない。今、子ども達は、兄弟が少なく、自分が上になって小さな子が巣立っていくさまを見る機会がないので、保育所も、地域の中の子育てを支援する場として、妊娠してからではなくて、その前の子ども達の育ちに貢献できたらと思う。そのための体制、整備をしていきたい。

(野中委員)

小学校から高校までの10代の子ども達、地域の人達との連携や居場所づくりが大切である。それには地域の人々の理解も必要である。私もそのような居場所づくり、ユースペースというところを運営しているが、家庭や学校、部活に居場所がない小学生



から高校生までの子が来る。そこで生きていく力を得て進学に向いたりする。そういう場がないとニート等になるという子がとても多い。乳幼児期の居場所は手厚く充実していると感じているので、小学校から高校までの18歳までの育ちをしっかりサポートする体制を今後、是非つくっていただきたい。地域の人も気持ちはあっても、どうしていいのかわからないようなので、連携、つないでいくところに色々な力が必要なのではないか。

(奈賀委員)

松戸は地域ボランティアがとっても多い地区で、特に県下でも安全指導の方が多。松戸の子どもは素直な子が多く、地域の人に毎朝おはようと声をかけられて、育んでもらっていると感じる。「一年生だった子がもう中学卒業するよ」などと言ってもらい嬉しく思う。しかし、「もう今年でもう終わりにさせて下さい」という人が増え、存続させていく方法について話題になるので、何か提案があれば聞きたい。

(富永委員)

放課後児童クラブについての不安があったが、松戸には、たくさん放課後児童クラブを運営する法人があり、自分の子どもが行っているところはとても活発に活動していて、内容も本当に充実していると思う。加えて、保育所からそうだが障害児の受け入れも良くやっていて、特別支援学級の子どもも通っている学童もある。そういう意味では、放課後児童クラブの更なる充実、更なる学校、福祉との連携などができれば指導員のスキルなどが上がっていくのではないかと。たとえば巡回指導や相談等があり、すぐに連携がとれる体制があると良い。

(鈴木委員)

松戸は緑が多く歴史資源が豊富、人材にも恵まれている。大手町、霞ヶ関までアクセスもよく近い、素晴らしい人達が多く住んでいるにもかかわらず、市役所にブランディングやマーケティング部署がないため、そういうものを取り上げられないと思う。組織改革のなかで、役所の担当者は2年~3年で部署が変わってしまい、専門性に薄くなってしまっているところがあるので、専門性に長けた人を置くようにすると、ずいぶん変わるのではないかと。また、小学校の取り組みの「わくわく探検隊」は、千葉県で教育大賞を取った。子ども達が、街を知って感じて、色々な関わりをもつプログラムとなっているので、そういうものが小中学校全体に広がっていくと良いのではないかと。

(会長)

子ども達の素直さと、自然体験の場があって、異世代交流ができる場もある。それを、これからどう居場所作りの充実と学童の充実につなげていくことができるのか。発達の問題のある子どもや外国人の子どもも全てという視野で、今後、基本計画のなかで活かしたらと思う。非常に短い時間の中で多くのことを皆様と考えていただきありがとうございます。実は、今回でこの話し合いが終わるわけではありません。本日の意見を事務局の方で足し、まとめたものを再提示し、基本理念、子ども子育ての

今後のあり方等の基本の柱につなげていきたい。

(2) 子ども・子育て支援新制度について

(事務局)

①計画策定の区域設定について

○計画策定にあたって

○計画策定の区域設定について

事務局より、資料に添って続けて説明。

②新制度の事業量の見込みについて

○松戸市子ども・子育て支援に関するアンケート調査（未就学保護者、小学生保護者）からみた利用ニーズ

事務局より、資料に添って説明。

(会長)

今の説明に対しての質問があれば挙手を願う。

(海老原委員)

資料2-2の「計画策定の区域設定について」について。3つの地域から小学校区まで区域を設定する考え方が示されており、その中で3つの地域で今回の現状把握の算出単位を設定されているが、実際的な問題として、利用のしやすさからすれば小学校区や中学校区などの本当に身近な自宅がある範囲だと思う。現状の把握として、具体的にここに挙げられている施設を道路や鉄道などが入った地図上で確認し、例えば1km圏内で見たとときに空白地帯がどのくらいあるのかなど、実際の空白地帯というのを把握されているか。

(事務局)

そこまでは把握していない。

(海老原委員)

3つの地域で、足りている、足りていないでは大雑把すぎではないかという印象を持っている。現状把握として小学校区レベルまたは支所管轄区レベルまでという中で、の詳細なスタディを実際にされた上でのこの3つの区域ということでのよいのか。

(会長)

3つの区域が大きいという懸念の上で、その詳細な、例えば9支所の捉え方等をしているかどうか。一番小さいところでは小学校区ということになるが、その間をとって9支所区なのかということも含め、どのように捉えているかかという意見だが事務局でどうか。

(事務局)

事務局としては、9支所管轄区で需給調整をみて整備していきたいと考えている。

(会長)

他に意見、質問はあるか。

区域設定の問題が意見として出ているが、事務局の提案は大きなまとまりとして3つの地域としているが、それは9つの支所管轄区というのを基本に3つの地域を考えたいという説明と理解してよいか。このことに関して今後、様々な施策を考えるにあたっての基本となってくると思うがどうか。

特にご意見がなければ、9つの支所管轄区を基本的にイメージしながら3つのまとまりを考え、数値的なものや今後の計画的なものを考える基礎としていくというようなことでよい。

特に意見がなければ、先に進ませていただく。事務局から膨大な資料を急ぎ足で説明があったので、色々な意見がある場合には事務局に文書等で伝えていただきたい。では、議題の議事の(3)に入る。

### (3) 放課後児童クラブに関する調査結果と事業評価について

○放課後児童クラブに関する調査結果と事業評価について

次世代育成支援行動計画評価委員 神谷委員より説明。

(神谷委員)

松戸市で初めて放課後児童クラブの現状を把握しようということで、総合的な調査、並びに事業評価として、各利用者と指導員、それから全国水準との比較をしながら調査をした結果である。松戸市の放課後児童クラブのまとめについて、ダイジェストしたもので、「アンケート調査報告書考察からの意見」が一緒に配布されているかと思うので、これを見ながら話を進める。

アンケート調査の結果からは「満足度は高い」という現状である。ただ、評価が高いイコール全て問題がないかということ、実際には各法人或いはクラブの差が大きいということも一方の課題として出てくる。5ページに載っております。さらにそうした問題の原因としては、指導員アンケートの結果に課題が若干あると思う。

これを全国でみたらどうか。まず松戸市の利用料が平成23年度から15,000円から12,000円におやつ代も含めて、値下げされている。全国平均の5,000円から10,000円未満という全国平均より若干上ということになるが、今、放課後児童クラブの利用料・おやつ代という形でだけとっているのも、そういった意味では利用料が落ち着いているというのが印象である。面積で言うと、1.65という放課後児童クラブガイドラインで厚労省から示された面積だが、一人あたりの面積の割合で言うと、そこそこ充足している。

開設時間については18時というのは若干短い。東京都内に通っている保護者から考

えると、19 時くらいまでの運営が実際は必要だろうと思うが、これに関しては要望に  
応えている法人もあるので、課題に対応しているというのが評価である。

土曜・休日の開所時間についても、非常に充足していると言える。

指導員の平均年収を見ると、全国のすべての平均と比較しても、そこそこのところ  
に松戸の指導員の給与は入っている。ただ、少し目立つのは常勤賃金職員が、かなり  
いいところに多く落ちてしまいい、非常勤の 100 万円未満がかなり多いというところ  
に若干の課題があると思う。一番の課題が、非常勤との兼ね合いということになる  
と思うが、資格保有率が圧倒的に低いというのが現実である。保育士幼稚園教諭、或  
いは小中高の教諭、そういった資格を持ち子どもの専門職として働いているというこ  
とには、まだ及んでいない。(6)の指導員の研修体制でいうと、資格保有率が低いわ  
りに、非常に乏しい割合の研修しか実行されていないということが現状と言える。

松戸市の設置数は全小学校区にあり、これはかなり前から設置されていた。まとめ  
にも書かせていただいたが、松戸市の放課後児童クラブの設置は、東京などとは異なり、  
民間組織が先駆的活動として推進してきた。これは、先駆者である先人の力による  
もので、行政主導の施策によるものではないということが、実に大きな意味を持つ  
ていると考えなければならない。

量的な問題としては仮に課題がないとしても、苦情等の考え方においては、もう少  
ししっかりとした研修指導体制、もしくは資格についての明確な考え方をもつ必要が  
あるだろうと思う。

特に、松戸市として注目していくことがあるなら、課題を解決する為に、運営組織  
において、放課後児童クラブガイドラインへの理解を深め、放課後児童クラブの保育  
指針というものを、きちんと再確認をするという研修が必要であろう。同様に、放課  
後児童クラブの指導員の業務内容の明確化を図る必要があるだろう。例えば、業務内  
容の中では、きちんと保護者との連携を取るべきと示されているので、当然そこには  
連絡帳の存在などが必要になる。或いは、児童の個人記録等が必要。そのようなもの  
がまったくない法人もあるという事実から、これらを一律的にレベルアップの為に進  
めていく必要がある。そう考えると、放課後児童対策の指導員基準は、国では定めき  
れていないことが実態にある。これは理由があり、各都道府県・市町村では民間主導  
で進められてきた放課後児童クラブに共通する課題があるので、国が一律に命令とい  
う形ではやりにくい。現実に反対があって、学童保育士という資格についても放棄せ  
ざるを得ない、棚上げせざるを得ないといった現状がある。であれば、松戸市独自の  
放課後児童対策指導員基準をある程度、明確な形でガイドラインとして示していく必  
要があるだろう。その為にも、放課後児童クラブ基準研究テキスト等に基づいて、研  
修会を開催し、更には指導員にこの受講単位をきちんと修めて、子どもの権利、或い  
は運営に関する倫理、こういったものを明確に修めていく必要があるだろう。そうな  
れば利用者からの苦情等が確実に減少することが明らかである。是非、この機会に、

子ども・子育て支援の範囲の中で、放課後児童クラブの質的なアップということも合わせて、みなさんで御議論いただく、或いは進めることを承認していただく必要があるのではないかとということで、提案をさせていただきました。

(西会長)

質問・意見はあるか。

(斉藤委員)

資料9ページ、指導員の平均年収のところ、松戸市のところは常勤と非常勤を一緒にして比率を出しておいてもらいたい。これだと、ある程度お金をもらっている人が多いように見えるが、現実の問題としてはそうではない。はっきりさせていただいたほうが良い。

3ページ、とても満足とやや満足で理由を分析しているが、やや満足ととても満足では大きく違うと思うので分けたほうが、もっとハッキリするのではないか。

(会長)

課題の明確化ということで、今のような要望があったので、また対応をお願いしたい。

他にご意見はあるか？本日の内容は事務局にまとめていただき、次回の会議につなげていきたい。その他の議題としまして、次回の会議等について事務局からあれば連絡をお願いしたい。

(6) その他

(事務局)

・次回会議について

日時：平成25年3月25日(火) 18:30～20:30

・まつど子育てフェスティバル「タウンミーティング」について

日時：平成25年2月23日(日) 10:00～11:15

場所：ふれあい22 1Fコミュニティー広場

・児童虐待防止講演会 「児童虐待をどう防ぐか」

日時：平成26年1月28日(火) 18:30～20:30

場所：市民劇場

(7) 閉会